

千葉 あいご

Vol.
90

Index

- [1][2] 令和7年度千葉県知的障害者福祉協会定期総会
- [2] 介護の仕事魅力発信事業 ショートムービー「おかえり」
- [3] 新任職員研修報告
- [4] 人材確保委員会活動報告
- [5] 県知的障害者福祉協会 支援スタッフ部会
- [5] 第1回職員交流フットサル大会
- [6][7] わが施設の自慢・アピールポイント④
- [7] 新事業所紹介
- [8] 千葉知協トピックス
- [8] 事務局だより・編集後記

協会公式Instagram▶
フォローをお願いします。



第90号 (2025年7月号)

発行日：2025年7月20日／発行者：里見吉英／編集者：畠山正昭・美留町麻未・成川 真

発行所：千葉県知的障害者福祉協会

[本部] 千葉市中央区中央3-15-6 山長（ヤマチョウ）ビル4F TEL 043-224-5721 HP <https://caid-net.com/>

[事務局] 船橋市金堀町499-1 大久保学園内 TEL 047-457-2462



里見会長挨拶

●会長挨拶

里見 吉英

定期総会に際して多数の出席をいただき誠にありがとうございます。皆様とこうしてお会いすると力強く感じます。

さて、今、問題になっていることは物価高です。米は高くなっていますし、他のほとんどの物も2割ぐらい高くなっています。こうした中、報酬改定についても3年に一度では追いつかない

令和7年度 千葉県知的障害者福祉協会定期総会

●日時 令和7年5月21日(水) 午後2時15分～

●会場 ホテルグリーンタワー幕張

いと感じています。高齢者の団体とも連携をとって、毎年、改定することはできないか提案しています。

もう一つの問題は処遇改善です。保育士さんが保育園に就職すると月10万円近くの手当があります。ところが福祉施設はそこまで手当がない現状です。再三にわたり福祉関係者のベースアップについて提言してまいりました。そして、今年度もベースアップに繋がりました。手続きについては当初、厚労省は4月15日までに申請して6月中に支給され、9月に実績報告をあげる工程でありました。しかし、県の事務処理の遅れがありまして、未だに県の通知がきていない状況です。皆さん心配されたと思います。

国からくる補助金の申請も同様で県の事務処理の遅さについて強く申し入れたところ、さらに指定更新申請も昨年の認可がまだきていない法人もあります。ここ数年、新しく株式会社の事業申請が多くなっている現状があり、申請書の修正に時間がかかっていることも理由としてあるようです。今ある事業所の申請を最優先してもらいたいと思っています。

県も加算や人材確保の予算には努力して頂いておりませんが、引き続き、物価高騰及び職員の給与アップに事務局また、全国の協会を通じて厚労省へ強く求めていきたいと思っています。

昨年は株式会社恵グループのグループホームにおける食費の問題で県の指導が入ったことは周知の通りです。それに伴って、今度は一部の株式会社による高額の家賃設定が問題となっています。そのことが影響しているのか県の指導

● 定期総会

思っております。

この先、進めていくべきことは災害対策です。災害はいつでも起こるかわかりません。起こった時、すぐに体制をとれるように各地区、協会全体で協力しあっていきたいと思っています。

千葉県知的障害者福祉協会の加盟事業所は377事業所となりました。協会発足当初は約30事業所でした。年々増え、ここ10年は大幅な加盟増数となりました。団体として大きくなり、以前より協会の重みは増してきています。顔の見える関係作りが一層大事だと感じています。今年度、1年良い年でありますように、協会の皆様で力を合わせていきましよう。今後ともよろしく願います。

総会の総合司会は生活サポート千葉の岸恵子氏、総会議長は大利根旭出福祉園の山之内俊雄氏の進行により順調に議事の審議がなされました。



総会会場の様子

が厳しくな
つてきてい
る現状があ
ります。そ
のあたりを
受けている
のは社会福
祉法人です
。社会福祉
法人は営利
を目的とし
てある団体
ではありません。誠実に運営してき
ました。責
められる筋
ではないと

● 講演

た。令和6年度事業報告、決算報告、令和7年度事業計画、収支予算については原案どおり承認されました。令和7年度役員は会長に里見吉英氏、副会長に小林勉氏、佐久間智氏、千日清氏、監事に白鳥征四郎氏、佐久間水月氏、事務局長に千日清氏です。引き続きよろしく願います。



石塚英一顧問弁護士

「福祉全般の相談内容状況」と題して顧問弁護士石塚英一氏の講演がありました。相談事例について利用者に関する内容では「無断外出による事故責任について」「借地権の相続について」等の相談。職員に関する内容は「怪文書と公益通報者保護法のケース」「セクハラ・パワハラに関する離職への対応」「休職事由消滅と有休休暇の取り扱いについて」「時間外手当の請求に関して」等の相談。施設経営に関する内容は「虐待問題への対応」「財産の施設への寄付・遺贈について」等、年間20数件の相談内容についての報告がされました。

各部会、委員会が活発に活動して機能していくことが当協会の活動を盛り上げていくこととなると思います。協会加盟事業所の皆様には積極的に協会への参加をよろしく願います。

以上報告いたします。

千葉県知的障害者福祉協会 広報委員会

介護の仕事魅力発信事業

ショートムービー「おかえり」

全国社会福祉法人経営者協議会が厚生労働省から「介護のしごと魅力発信等事業」を受託し、制作されたショートムービー「おかえり」は、当協会の加盟法人である佐啓会の全面協力により実現した企画となっています。映画に欠かさないエキストラは佐啓会の利用者・子供たちが務めており、施設での日ごろの温かいかわりが画面から伝わってきます。多くの人が一丸となつてかわり、人と人がふれあうことで生まれた感動の物語となっております。本作を通じて福祉のしごとの魅力を伝える素晴らしい作品となっておりますので、ぜひご覧ください。

社会福祉 HERO'S から生まれた感動ストーリー



主演 本島純政

ショートムービー公開中

この物語は、若手福祉職によるスピーチコンテスト「社会福祉 HERO'S」で佐啓会：弓場流紀支援員が披露したスピーチをもとに、脚本・映像化された実話に基づく感動ストーリー。



出演 本島純政「仮面ライダー ガッチャード」[未成年～未熟な俺たちは不器用に進行中]
柳田健汰／宮宇地怜央／櫻井麻七／小野孝弘
企画・脚本・監督：山田英治 制作：社会の広告社／BOLDTYPE
企画制作：全日本社会福祉法人経営協議会
撮影の舞台は「ふる里学舎蔵波青年寮」。そこで実際に暮らす柳田君の名演技にご注目ください！
また、一緒に暮らす利用者や職員も多数出演しています。

▲本編はこちらから▲

新任職員研修報告 6月16日(月)～17日(火)開催

●報告

社会福祉法人 父の樹会

父の樹園管理者 鈴木 貴彦

次世代の福祉を担う、新たな一歩。知的障害のある方々を支える「支援者」としての第一歩を踏み出すべく、6月16日～17日にかけて千葉県鴨川市・鴨川グランドホテルにて、新卒1～2年目の職員を対象とした「新任職員研修会」が開催され、県内各地から95名が参加されました。

初日の講義では、大利根旭出福祉園の山之内施設長による「知的障害のある方への支援」をテーマに、障害の定義や支援者としての心構えを確認。午後には「先輩職員から学ぶ」として、かしの木園・高木氏と中里の家・井坂氏が、自身の体験をもとに、現場での気づきや失敗を通じた学び、利用者に真摯に向き合う大切さを語りました。また、「身体拘束・虐待をなくすための支援のポイント」について、社会福祉法人フラットの理事長・林氏による講演も行われ、何度聞いても新たな発見がある虐待防止に関する内容であり、自らの支援の「グレーゾーン」に気づく重要性を改めて認識できました。続いて、協会副会長・事務局長の千日氏が、当協会の活動や377施設の連携について説明され、参加者一人ひとりが次世代の担い手であることを強調されていました。夕食時の意見交換会では、所属施設を越えた情報共有が行われ、有意義な交流が育まれました。

2日目は、「どんな支援者になりたいか、あなたの目指す支援者像」利用者として接して思うこと」をテーマにグループワークが実施され、参加者は学びをもとに意見を交換し、支援に対する多様な視点と熱意が伝わりました。最後は、

ぜんち共済㈱の倉持氏と㈱永田事務所の八木氏による講義が行われ、事例を用いた接遇マナーの具体的な実践方法が紹介され、参加者一人ひとりが支援者としての接遇マインドを再認識する有意義な時間となりました。

研修会の冒頭、当協会研修委員会の小林委員長より「見通しを持って自発的に研修に取り組み、自らの支援を振り返り、目標を持って心の支えとすることの大切さ」が語られ、その言葉どおり、2日間を通じて参加者の皆さんの真剣な姿勢と熱意が随所に感じられ、大変充実した研修となりました。本研修会は、講師の皆様、協力委員、そして多くのスタッフの支えにより無事に終了しました。参加者一人ひとりが、次世代の障害福祉を支える存在として、今後ますます活躍されることを心より願い、研修報告いたします。

●新任職員研修会に参加して

社会福祉法人桐友学園 沼南育成園 稲垣 楽来

今回の研修では、知的障害のある方への支援に必要な知識と姿勢について、多くの学びを得ることができました。初めての外部研修ということで、不安や緊張もありましたが、いざ参加してみると同じような経験年数の他施設の職員と交流することができ、すぐに打ち解けることができました。グループワークや意見交換を通して、それぞれの施設での取り組みや支援方法について知ることができ、自分の支援を客観的に見直すきっかけにもなりました。

初日の講演では、様々なテーマを通じて、支援はただの業務ではなく、一人ひとりの生活と尊厳を支える大切な関わりであることを改めて実感しました。特に、利用者の立場に立つて考

える視点や、日々の言動が信頼関係の基礎になることの重要性を学びました。また、先輩職員の体験談からは、現場で直面する課題や悩みながらも工夫と努力を重ねてきたリアルな経験を聞くことができ、今後の自分の支援実践の指針になりました。さらに、身体拘束や虐待防止に関する講演では、制度的な理解に加え「相手を思う支援」「そもそも身体拘束をしなくてよい状況を作る」という考え方が非常に印象に残りました。

2日目のグループ討議は、「どんな支援者になりたいか、あなたの目指す支援者像」利用者として接して思うこと」というテーマで、KJ法を用いて話し合いました。各々が思いのままに付箋に理想の支援者像を書き、なぜそう思ったのかという理由とともに意見交換をしました。初めは、こんなバラバラな意見がまとまっていくのかと疑問もありましたが、KJ法の通り進めていくと最終的に模造紙1枚にまとまり、それぞれの関係性なども可視化することができました。他グループの発表も聞き思ったことは、テーマに対する答えに「信頼」という言葉が多く入っていたことです。利用者からの信頼に限らず、保護者、他職員からも信頼を得ることが理想の支援者像である、そう感じている人が多いと考えることができました。同じ立場の仲間と意見を交わすことで、自分一人では気づけなかった視点を得ることができ支援者としての自己理解を深める貴重な時間となりました。総じて、本研修を通じて支援者としての基礎を築くことができたと感じており、今後の実践においても学んだことを活かして、利用者にとって安心して信頼される存在を目指していきたいと強く感じています。

人材確保委員会活動報告

人材確保の取り組みについて

人材確保委員会

社会福祉法人横の実会総務部 在田 創一

令和6年度の人材確保委員会は、以前の記事でもお伝えさせて頂きましたが、千葉県より「千葉県障害福祉のしごと魅力発信事業」を受託し、「法人採用担当者向け研修」「福祉ライブカフェ」「中高生向けシンポジウム」「学内開催イベント」福祉こねくとフェア」「SNSを活用した情報発信研修」「キャラバン隊」といった6つの事業を行っています。今回はその中でも、「SNSを活用した情報発信研修」「福祉ライブカフェ」の実施結果について共有させて頂きたいと思います。

「SNSを活用した情報発信研修」は、unipe株式会社さんを講師として、モデルとなる4法人に対して、2024年9月から2025年3月まで法人Instagramの開設及びより魅力的な投稿方法について、毎月1回継続的に学ぶ機会を設けました。参加法人のなかには、既にアカウントを持つてはいたけど上手く活用できていなかった法人や、アカウントの開設から始める法人までありましたが、それぞれの法人においてInstagramで情報発信するチームを編成し、徐々にその発信力を高めていくてくれました。ただ漠然と情報発信するのではなく、どんな相手に届けたいのかをしっかりとイメージする。そして、自分達が「やったこと」ではなくて、「やった理由」を発信することが意識されるようになった各モデル法人の投稿は、どれも障害福祉の仕事が持つ魅力を存分に伝えてくれるものとなっています。

また3月18日に行われた本研修の最終回では、6ヶ月の成果を各モデル法人から発表してもらったわけですが、この成果発表には学生も同席してもらっています。我々法人がターゲットとなる学生に届けたいと思って投稿したものが、実際の学生にはどのように響くのか、その反応はなんともドキドキする気持ちもありました。ただ、学生からは「自分も就職希望の法人さん等のSNSやホームページ等を見ることがありますが、ホームページで見るよりも、より自然で変に作られてない感じがInstagramでは伝わってくる感じがして、この仕事を持つ魅力とかが伝わりやすかったです。」という声を頂くことができました。これからも福祉の次代を担う若者達へ我々の仕事を持つ魅力を発信していけるように、委員会としても尽力していきたいと思います。

そして、3月22日には新卒向け合同就職説明会「福祉ライブカフェ」が開催されました。毎年、千葉工業大学倉斗研究室の学生達が半年間かけてプロモーションしてくれているこのイベントの今年度のテーマは「これからののはなし」。3Kを筆頭についつい付きまとう福祉の仕事が持つ暗いイメージに対して、実際に我々の福祉の現場を見て学生が感じたイメージは真逆のものだったようです。彼等から出てきたのは、今までの暗いイメージに引きずられた福祉の話をするのではなくて、もっとこれからの福祉が持っている可能性について知ることができる就職イベントにしたいという思いだったそうです。このテーマを聞いた時は自分自身もとても感慨深いものがありました。将来の福祉が持つ可能性が彼等のような若者にはしっかりと伝わっているのかもしれないと思われたからです。

当日の運営にはこの千葉工大に加えて、千葉大、千葉商科大学、淑徳大学の学生も運営チームに加わってくれました。イベント発足当初から掲げてきた、大人達が一方的に作りあげる就職フェアではなく、学生達自信が感じた視点に基づく学生達による就職フェアを体現するようないイベントになったのではないかと感じています。有難いことに、この日の来場者は59名。さらにもっと多くの学生達に参加してもらいたい気持ちには勿論あるものの、委員会としてもその役割を果たせたのではないかと考えています。

令和7年度の人材確保委員会は、引き続き千葉県より「障害福祉のしごと魅力発信事業」を受託し、人材確保そして福祉の裾野を広げていけるように尽力していきたいと考えています。この仕事に就く私達だからこそできる「これからののはなし」を伝えていけるよう、引き続き当委員会の活動にご理解とご協力を頂きますようお願い致します。



「SNSを活用した情報発信研修」のモデル法人Instagram



3月22日開催「福祉ライブカフェ」のチラシと当日の様子

県知的障害者福祉協会支援スタッフ部会

テーマ——精神疾患と知的障害をやさしく理解する研修会
（精神疾患の基礎を学び、重複障害の理解に繋げる）

令和6年11月21日(木)、千葉県総合スポーツセンター スポーツ科学センターにて学習会を開催いたしました。医療法人白百合会 市原鶴岡病院 看護師長 元吉幸治氏を講師としてお迎えし、「精神疾患と知的障害をやさしく理解する研修会」精神疾患の基礎を学び、重複障害の理解に繋げる」をテーマにご講演頂きました。今回のテーマですが、以前、市原・安房・君津ブロックで行われており、「大好評だった」と話しを受け、支援スタッフ部会全体でのテーマとして決めたのですが、82名という実に多くのご参加を頂き、盛大かつ有意義な研修会となりました。

元吉氏は、精神疾患、発達障害の基本的な知識について、現場の観点から、動画やご本人の体験談を織り交ぜながら、分かりやすく噛み砕いて説明して下さいました。

精神疾患、発達障害を共に理解するという事は、本人の特性を理解し、どのように支援していくか、オーダーメイドの方法を個別に考える事です。それは、発達障害であるうと、それぞれの特徴を理解

し、個別に支援のあり方を考えるという事は、全ての利用者の方について同じことが言えるものと考えます。ただ、日頃の支援の中で、どうしてこのような行動に至るのか、障害の特性を理解しているつもりでも、袋小路に迷い込むことは多々あると思います。今回の学習会が、こうした壁を乗り越える、若しくは迂回路を見つけるきっかけになるのではないのでしょうか。来年度は、役員の改選となりますが、多くの方が参加したくなるような内容の研修会を企画していけるように努めて参ります。今後とも、支援スタッフ部会の活動にご協力をお願い申し上げます。

社会福祉法人横の里いすみ学園
支援スタッフ部会 部会長 佐久間雅也

令和7年度 支援スタッフ部会 運営委員名簿	
役 職	氏 名 (施設名)
部 会 長	佐久間 雅 也 (いすみ学園)
副 部 会 長 兼 東 葛 北 口 夷 口 長	鶴 岡 秀 隆 (ピア宮敷)
副 部 会 長 兼 市 原 安 房 君 口 口 口 長	阿 部 桂 佑 (クローバー学園)
東 葛 北 口 夷 口 長	吉 田 寛 (みどり園)
東 葛 南 口 夷 口 長	本 吉 晋 太 朗 (あかね園)
千 葉 づ 長 口 口 口 長	本 山 雄 大 (こころふる浜野)
山 武 印 橋 口 口 口 長	諸 澤 尚 美 (十倉厚生園)
香 取 海 匠 口 口 口 長	木 内 航 也 (大利根旭出福祉園)
事 務 局 長	荒 田 真 充 (ぱれっと)

第1回職員交流フットサル大会

令和7年3月20日に新しい企画として福利厚生委員会主催の第1回職員交流フットサル大会が千葉市にあるパデル&フットサル「晴れのち晴れ」を会場に開催されました。9法人、10チームが参加し、白熱したゲームが繰り広げられました。

決勝は、ふる里学舎と大久保学園の対戦となり、3-2でふる里学舎が第1回大会優勝を果たしました。



ふる里学舎

【試合結果】

優勝

準優勝

福利厚生委員長賞

敢闘チーム賞

ふる里学舎

大久保学園

ふる里学舎和田浦

心聖会

【参加チーム】

東葛地区…大久保学園・心聖会・市川レンコンの会

千葉地区…ふる里学舎・クローバー会

北総地区…野栄福祉会・八光聴

成田地区…清郷会

県南地区…ふる里学舎和田浦・安房広域福祉会

計10チーム

支援スタッフ
から見た！

わが施設の自慢・アピールポイント④8

平成20年度から47回にわたり111の“プチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は3つの“プチ自慢”です！

東葛南部ブロック・社会福祉法人さざんか会・ゆたか福祉苑

～「好き」が見つかる！「得意」が活きる！毎日が楽しく笑顔あふれる！～

ゆたか福祉苑は、知的に障害のある方を対象とした生活介護事業所です。現在80名以上の方にご利用登録いただいています。活動班は5グループに分かれており、ご利用者様お一人おひとりの「好き」や「得意」を見出した活動にお誘いすることで、充実した1日を過ごしていただきたいと思い、様々な活動をご用意しております。

主な活動の種類は大きく分けて2つあり、室内活動と外出活動があります。

室内活動の内容は、季節の装飾作り、ストレッチやマッサージなどの身体ケア、音楽鑑賞及びダンス、地域新聞の折り込み作業などがあります。

外出活動の内容は、自然溢れる様々なコースのお散歩、広い公園を目的地としたドライブ、指定された地域でのポスティング(前日に折り込み作業を行った地域新聞の配布作業)などがあります。

さらに、ご利用者様から絶大な人気を得ている活動「お茶会」では、毎週金曜日に1週間のお疲れ様会としてジュースやコーヒーを召し上がっていただいています。

さらに今年度は、コロナ禍以降実施できていなかった



室内活動でゲームを楽しむ様子



地域新聞の折り込み作業の様子

「個別外出」を再開することになりました。複数あるプランの中から、それぞれの趣味嗜好に合ったコースをお選びいただき、ゆたか福祉苑では味わえない非日常を体験していただく外出イベントとなっております。内容は電車旅、ショッピングモール散策、カラオケ、レストランでのランチなどです。

近年、ご利用者様、保護者の方ともに高齢化が進み、外出することが難しくなっている方が増えています。そのような方々のためにも、楽しいひとときが提供できる良い機会になるかと思っています。

サービス管理責任者 大 川 悠 希

香取・海匠ブロック・八日市場学園

～癒しと安らぎを皆さんに～

八日市場学園は、植木のまち匝瑳市の安久山に位置する緑に囲まれた施設です。そのせいかトカゲが施設内に入り込んできますが、誰も驚くことなく皆でワイワイ楽しく暮らしております。

新しい取り組み

今回は数ある活動の中でも積極的に取り組んでいるリラクゼーションという活動を紹介したいと思います。

そもそもこのリラクゼーションが始まったのは利用者さんの高齢化が進み、足のむくみや身体の不調を訴える利用者さんが多く、そういった方向けにマッサージ等で癒し、安らぎを提供出来ないかという話が出たのがきっかけです。ケアに関してはマッチョな作業療法士と美魔女セラピストで行っています。内容は足浴→フットケア→マッサージの流れで20～30分程を目安にケアをします。4月からこの活動を行っていますが無時点で驚きの効果が見られており、ケアを受ける利用者さんの中にはとても元気な方や、毎日大声で騒ぐ方がとても気持ち良さそうにケアを受け、その後も穏やかに過ごすことが出



作業療法士によるモビライゼーションの様子



オイルマッサージの様子



血流を改善する為のフットバスの様子

来ています。他にむくみのある方や、よく躓いたり、脱力を起こす方の足取りも軽くなりました。また血圧が高い方については数値が劇的に変わってきています。こうしたことからマッサージの効果と落ち着いた環境作り、職員とのマンツーマンの関わりによって良い作用が働いているものと思われます。今後も沢山の利用者さんのケアをさせていただき、少しでも落ち着いて癒された顔を毎日見ていきたいです。また極上な空間でケアを行えるよう園長に交渉していきたいと考えております。(笑)

サービス管理責任者 西 村 洋 紀

千葉ブロック・社会福祉法人父の樹会・就労継続支援B型事業所・おおぞら園

～食べた人が笑顔になる焼き菓子を目指して～

社会福祉法人父の樹会のおおぞら園は千葉市稲毛区にある就労継続支援B型事業所です。平成27年4月に開設し、今年度で11年目を迎えます。

開所当時から行っている焼き菓子製造では、「食べた人が笑顔になるおいしい焼き菓子」、「地域との共同」、「仲間たちの社会参加」をコンセプトに掲げ、千葉の素材を使ったフィナンシェに積極的に取り組んでまいりました。屋号の「小さな焼き菓子屋おおぞら」の由来は、「今は小さな焼き菓子屋だけど、いつか大きくはばたきたい!」という願いが込められています。

こういった施設で作られる製品は、障害者を応援する気持ちで買っていただくことがあります。もちろん、それも嬉しいのですが、「美味しいから。」という理由で手に取ってもらえるのが、本当の意味での利用者さんの自



フィナンシェ・ラスク



チラシ用フィナンシェ



おおぞら園外観

立につながると考え、クオリティを追求するために妥協をせず、活動してきました。

縁あってたくさんの人との輪が広がり、企業からの注文や贈答用などで大量の注文も入るようになりました。仲間達は毎日忙しい日々ですが、「大変だ!」と言いつつ、しっかり最後までやり遂げる姿に、頭が下がる思いです。

食べた人が笑顔になり、地元の千葉を盛り上げて、そして利用者の皆さんのやりがいや自立につながる、そんな製品を作ることを目指しています。

施設長 有 川 岳 英



「ただいま」「おかえり」の声がかかる玄関（正面）



子ども達が元気に遊ぶ中庭からの眺め（横）

「YouTUBEを観たい」「携帯電話がほしい」「夜におやつを食べたい」「お風呂にはもつと遅い時間に入りたい」「就寝

夜更かしをして遅刻が続き、学校の先生に心配を掛けしてしまうことがあります。しかし、今では生活リズムが整い、児童全員で遅刻せず登校できるようになりました。

社会福祉法人オリーブの樹は令和7年4月1日に、千葉市緑区鎌取町に福祉型障害児入所施設オリーブファミリアを開所しました。現在3歳の未就学児から15歳の中学生までの児童16名が、男女別3つのユニットで暮らしています。

開所して3ヶ月が経ち、児童は毎日元気いっぱい生活しています。順調な暮らしを紹介したいところですが、そうともいわず中学生ユニットでは、児童皆で

福祉型障害児入所施設 オリーブファミリア

新事業所紹介

時間を遅くしてほしい」という希望が児童から出たり、親御さんに夜間こっそり電話を掛けている児童もいました。どのような希望や願いもできれば叶えたいですが、集団で生活している中では難しいこともあります。また、生育歴の異なる児童が同じ屋根の下で暮らすことは容易なことではなく、児童間の喧嘩や職員への反発もあります。その度に児童、職員それぞれが悩み、答えが見つからないまま、翌日を迎えることもあります。あれほど悩んでいたのに、いつの間にか一緒に話し、笑っている。そのような暮らしの繰り返しというのが現状です。

開所して3ヶ月が経ち、ふとした時に児童の成長を見られることも喜びとなっています。

児童間での関係性もできてきて、年上の児童は年下の児童に優しく接し遊んでくれます。幼児も年上の児童を真似して、お手伝いしてくれるようになり、児童の成長を感じる度に嬉しい瞬間がたくさんあります。

ある小学生の男子児童が言いました。「僕、おじいちゃんになってもここに居られるの？また出ていくの？僕はもう出たくないよ。」と。当施設は18歳で卒園退所となりますが、当法人の就労支援や共同生活援助で児童が地域で働き、地域で暮らせるように見守っていきたいです。

オリーブファミリアは、「仲間」「家族」を意味します。児童が何歳になっても、ふと帰ってこられる温かい故郷のような施設であり続けたいです。

児童指導員 川 島 尚 子

千葉知協
トピックス

スポーツ文化委員会 藤崎 明

熱戦！ 千葉県障害者スポーツ大会

今年度も千葉県障害者スポーツ大会が、5月25日の千葉県総合スポーツセンター陸上競技場での総合開会式を皮切りに、知的障害関係では陸上競技、水泳、卓球、ボウリングの4競技によって開催されました。

本大会は、10月に開催される全国障害者スポーツ大会「わたSHIGA輝く障スポ2025」への千葉県代表選手選考も兼ねており、各競技とも県代表を目指して熱い戦いが繰り広げられ、知的障害関係では、以下の選手が大会記録を更新しました。

【陸上】

男子100m青年… 重松 颯太(ones)
男子1500m壮年… 海老原聖也(我孫子市)
男子走幅跳少年… 松本 吏功(Diversity A.C.千葉)
男子ジャベリックスロー青年…

立津 流星(ふる里学舎)
女子1500m壮年… 山本 京子(ひかりAC)
女子ジャベリックスロー壮年…

勝股 美和(八日市場学園)

【水泳】

男子25m自由形青年… 中島 啓智(習志野市)
男子50m自由形青年… 八重樫 準(市川市)

上村 温(我孫子市)

男子50m背泳ぎ… 山本 健史(八千代身障会)

女子25m平泳ぎ少年… 大野 結衣(船橋市)

女子50m自由形青年… 安藤 涉(成田市)

女子50m自由形壮年… 佐藤 友紀(山武市)

安藤 涉(成田市)
今井 彩音(船橋市)

全国障害者スポーツ大会

「わたSHIGA輝く障スポ2025」

千葉県代表選手決定

10月25日から27日まで滋賀県で開催される第24回全国障害者スポーツ大会「わたSHIGA輝く障スポ2025」の千葉県代表派遣選手が発表されました。千葉県の知的障害関係選手枠は個人競技30名、団体競技15名。千葉県選手団の大いなる活躍が期待されます。

知的障害関係の派遣選手は以下のとおりです。

【陸上競技】

山本京子、高原麻衣子(以上、ひかりAC)、小林 舜、村上大樹、梅田晴斗(以上、流山高等学園)、永山武真(白井市)、上出翔太(十条SC)、原野史奈(我孫子市)、岸本和己、河村拓海、関 望(以上、ones)。

鈴木輝矢、寫田開人、米澤 諒、松本吏功(以上、Diversity A.C.千葉)

【水泳】

上村 温(我孫子市)、中島啓智(習志野市)、安藤 涉(成田市)、八重樫 準、鈴木千絵子(以上、市川市)

【卓球】

松岡弘醒、竹守 彪(以上、TOMAX)、出口翔太(SON・千葉)、北守美織(八千代市身体障害者福祉会)

【ボウリング】

鈴木政徳(茂原市)、秋葉陽介(船橋市)、友田彩花(君津市)

渡邊倅之介(市川大野高等学園)、

田中秀治(市原市)、近藤晃久(流山市)

【ソフトボール】

境 大介(ビーアンビシヤス)、大木 聡(富里福葉苑)、森口市瑛(市川大野高等学園)、松井広大(市川市)

谷奥大晴(四街道市)、宮内透允(成田市)、福田大生(流山市)、四宮悠誠(八街市)、東 佳汰(東金市)、

篠塚達稀(鎌ヶ谷市)、古川将行、鯉江周平、滝 颯太、

三浦有馬、樋口太雅(以上、船橋市)

※派遣選手(所属も含む)は、6月20日現在のもので

事務局便り

事務局長 千日 清

来年8年度の県への要望もとまりまじめが始まりました。皆様からも忌憚のないご意見を。

今年も酷暑を思うと重たい気分、健康管理に十分にお気を付けてください。

編集後記

おおはし園 成川 真

送られてきた「原稿」を読んで「県にこんな事を要望してくれたのか」「人材を確保する為にこんな取り組みをしているんだ」「この施設ではこんな支援をしているんだ」など、毎回思います。編集に携わることがなければ、おそらく知りませんでした。一人でも多くの方が「あいご」を手にとって、私のように新しい発見をして頂ければ嬉しく思います。